

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	良く なっている	観光名所（従業員）	来客数の動き	・乗降客数の比較からだが、11月28日までの乗降客数の前年比は約130%、前々年比でも約114%と増加している。
	やや良く なっている	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・例年よりも3週間ほどの遅れで雪が降り、ようやく客の関心が防寒物に向いてきており、購買意欲も増してきている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・初雪は遅れたものの、その後の冷え込みで冬物衣料の売上が急速に回復している。来客数は横ばいであるものの、買上客数及び客単価は伸びている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・チラシ投入のタイミング及び降雪により、冬物、防寒物関連が一気に動いた。初雪は遅かったが、冬本番を迎えて、月全体としては好調に推移した。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・地元球団の優勝もあり、今月の売上は好調に推移している。ようやく雪が降り、寒くなってきたことで冬物関連も動いている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・各週末に大型のイベントが開催されたことで、客室稼働、客単価ともに好調に推移した。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・住宅市場では、消費税増税が確定して、若干の駆け込み需要がみられるようになってきた。
	変わらない	商店街（代表者）	単価の動き	・前年と同じ売出しを開催したところ、来客数は前年並みに確保できたが、客単価が大幅に下落し、前年比で70%弱に落ちた。
		商店街（代表者）	単価の動き	・今月単月で見ると、防寒物衣料の動きが多少あるため、高額な商品が売れている。しかし、客単価が決まらずに上がっているわけではなく、3か月前と比べてそう良いとは判断できない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応をみると、前と変わらないという話が多かった。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・店全体の売上はほぼ前年並みだが、今月は防寒衣料の動きにより客単価が前年比104.7%とアップしている。しかしながら、買上客数は前年比95.2%と前月よりもダウンしている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・来客数の減少傾向に歯止めがかからない。強化企画を実施することで瞬間的には増加するものの、前後での反動減があり、月全体では減少している。
		百貨店（役員）	お客様の様子	・ホームセンターは比較的順調に推移しており、衣料品及び生活用品も前年並みで推移している。しかし、スーパーが大苦戦しており、客単価、来客数ともに悪い。外食が増えているという話も聞かないため、食卓の献立数を減らしていると思われる。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・10月よりやや上向いているように感じるが、全体的にはまだやや悪い状態のまま推移している。客単価は依然として、前年比で0.5~1.0%低下しており、来客数についても前年比で2.0%前後低下して推移しており、厳しい状況が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・たばこの売上の減少に歯止めがかからない。早朝の時間帯での減少が大きく、今までけん引していた部分が減少に転じたことで、全体の数字に影響している。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・イベント商材の動きが鈍い。クリスマス商材や年末年始商材の動きも同様に鈍く、買い控えやぎりぎりまで様子を見る行動が出ている。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・新型OS発売の影響でパソコンの需要が上向いてきたが、テレビの需要の低迷が続き、全体としては前年とほぼ横ばいの状況である。
		乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・販売がスモール系の車種にシフトしているため、売上、利益とも減少している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量が低迷したままであり、店頭に来る客もめっきり減っている。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・新車を購入した客の来店が増えている。冬に必要なタイヤやワイパーが動いている。
		その他専門店 [医薬品]（経営者）	来客数の動き	・少数のロイヤルカスタマーの動きによって日々の売上が激変している。天候不順の影響もあるが、明らかな買い控えも発生している。年金の非支給月は特に顕著である。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・今のところ石油製品価格は安定して推移している。

	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・連休等は観光客が見込めるが、普段の日はあまり来客数が増えない。
	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・年間予算に対する売上が、ほぼ前年比100%で推移しており、極端な変動がない。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・当地からの航空機利用は前年比でややダウンして推移している。前年は震災復興需要などでビジネス利用が活発であったことが要因とみられる。
	タクシー運転手	来客数の動き	・例年より初雪が遅かったが、雨の日が多かったほか、地元球団の優勝パレードなどのイベントの影響により、タクシーの売上が前年よりもやや良くなっている。ただし、天気の良い日は前年より売上が悪い。
	タクシー運転手	販売量の動き	・今月に入って利用客も注文も減っている。観光客の多かった3か月前と比較して、タクシーの売上は約10%のマイナスである。しかし、前年実績と比べると約7.6%増えていることから景気は変わらない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・注文数が前年比でマイナスとなっており、特に観光客からのオーダーが減少している。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・売上の前年比が上がりもしないが、下がりもしないという状況で推移している。消費生活がパターン化しているようにみられる。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・分譲マンションに対する客の購買意欲は相変わらず高いが、その意欲が特にこれまで以上に高まっているわけではない。むしろ、総選挙の結果によっては、住宅金利が変動する可能性があるため、総選挙後に客の様子が多少変化するかもしれない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・観光土産店を経営しているが、売上が前年比6割とかなり落ち込んでいる。10月は前年比120%であったが、11月になり急ブレーキを踏んだような感じで落ちている。近隣のホテル、温泉等も相当悪く、人が入っていない状況である。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順の影響もあり、外出が減っている様子がうかがえる。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・11月の上旬はあまり気にならなかったが、中旬以降、政局が解散ムードになるにつれて、観光客が顕著に減少してきた。11月までの総売上については前年比で3%程度伸びているが、選挙戦一色で消費が落ち込んでいる。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・極端な安売りをしなくなったこともあり、8月から11月まで、右肩下がりで販売量が落ちている。
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・足元の売上状況は、来客数、客単価ともに厳しい数字で推移しており、一段の消費低迷の状況がうかがえる。
	スーパー（役員）	お客様の様子	・週末のまとめ買いが少なくなり、必要な物を必要なだけ購入する傾向が強くなっている。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候要因もあるが、工事関係者の来店が減少している。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・前年と比較して明確に売上が減少している。競合店がノルマを設定しているという情報も多く聞かれる。
	衣料品専門店（店長）	単価の動き	・今までより買い方が非常に少額になっている。売り掛けの場合も入金が遅れてきている。
	衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・消費者の購買意欲が一段と厳しくなってきた。総選挙も告示間近となり、高額衣料品が伸び悩んでいる。
	家電量販店（店員）	お客様の様子	・客は何度も店を回って値段を見ており、一度の来店では、買う物を決めない状況にある。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー減税は現在も続いているが、エコカー補助金がなくなったあおりを受けている。前倒しで購入を決めた客が多いため、今は決まらなくなっている。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・今月中旬までは観光客の入込も良く、前年比プラスで推移していたが、下旬の悪天候でディナータイムは客がほとんど入らない日が続き、最終的には前年比はマイナス5%であった。ただし、観光客の入込は前年並みであった。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・気温の急降下や連休が入ったことに加えて、総選挙の確定後に夕食が落ち込んだことから、前年を下回った。ランチはそこそこ客が入るが、夕食は客足が遠のいた。地方の飲食店では、味を落とさない努力をしている店が昼夜とも繁盛している。しかし、客単価が下がっているなかで、苦しい台所事情は変わらない。

		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・年末を控えて、客の利用控えがみられる。総選挙があることも影響している。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・9～11月と3か月連続で来客数が前年より減少しており、特に10～11月は前年比で10%以上の低下となっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月に入って、前月から更に下ぶれするような消費動向になってきている。衆議院の解散もあり、この先も非常に不安定な状況が続くような経済状況になる可能性が高い。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・競合他社が発売した商品が強力で、自社製品を値下げしても販売量が増えない。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・本格的な冬を迎え、気候的にも厳しくなったことから、欠航回数が増加している。また、観光が閑散期となり、来客数は減少している。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・例年になく客の動きが悪い。
	悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・地元百貨店に入店した大手生活雑貨店の集客効果と、中心部に足を運んだついで買いによる商店街の売上アップを期待したが、予想に反し商店街の売上は伸びていない。また、大手生活雑貨店自体も閉店当初の客のにぎわいがみられない。エリア内の駐車場についても、連日半分以上空いている場所が多く、来街者は減少している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・10月と比べると売上はやや回復しているが、依然として悪いという状況には変わりはない。主要な客先である飲食店の客が少なく、得意先が非常に苦戦している。当然、当社の売上にも跳ね返ってきている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・新車、中古車ともに受注量が減ってきている。受注残も減っており、売上の低下が加速してきた。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・道外からの団体ツアー客の漸減は続いているが、これまで堅調であった道内客の動きも鈍くなっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・年末を控えているためか、来客数が減少している。
企業動向関連 (北海道)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・所属する業界の特殊要因ではあるが、スマートフォンの普及に伴う需要増により、景況感としては以前よりは回復傾向が顕著である。
		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量、価格ともに向上している。
	変わらない	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して、受注量、販売量ともに特に変化がなく、前年と比較しても同等の水準となっている。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要が住宅着工を後押ししている。その効果で来春納品の物件が増えてきている。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・震災復興対策貨物がようやく動き始めた。テトラポット、消波ブロック等のコンクリート製品について、道内より仙台港への海上シャーシ輸送が今月より開始されており、苫小牧港から50000トン、釧路港から2000トンの出荷量がみられる。そのほか、防波堤、岸壁の基礎工事に使用される割石についても、道内各港から内航船での輸送が行われている。
		金融業（企画担当）	それ以外	・設備投資は、医療介護施設の新增設やメガソーラーの建設で底堅い。住宅着工は低水準ながら持ち直している。しかし、建設関連は技能者の人手不足で工期の遅れも出ている。観光関連は中国人観光客のキャンセルはあるが、全体としては持ち直している。
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引関連や建物等の建築は一時的に上向きの状態にあるが、最近に至ってはやや下向き気味であり、どちらとも言えない状態である。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・仕事量は増えてきている。しかし、取引条件が一向に改善されない。忙しくはなっているが、利益は出ないという状況にある。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・各種展示会への出足が鈍い。

	やや悪く なっている	食料品製造業 (団体役員)	それ以外	・製造企業は漁獲量や加工原料の減少や価格高騰のなかで、大手スーパーや量販店の安価競争の強まりもあり、生産コスト割れした状況となっており、厳しさが増している。年末商戦期を迎えて、受注増の時期ではあるものの、先行きの経済不振や政治の混迷で消費者の倏約思考が強まり、景気の状態は悪化している。
		建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・工事量増大のためではなく、建築躯体工事や内装工事、設備工事にかかわる労務者の減少により、数多くの工事現場で工程遅延が生じており、物が動かない状況となっている。
		輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・取扱量が前年比、前月比とも落ち込んできている。今期は天候的にも恵まれており、冬の到来が遅れていることから、工事物件の進ちょくも順調とみられるが、新規案件の引き合いが減少している。
		司法書士	取引先の様子	・不動産の売買、建物の新築が相変わらず低迷している。
		司法書士	取引先の様子	・秋の深まりとともに衆議院の解散風が吹き出し、政府も景気回復策を出すことができないことから、投資意欲が弱まり、不動産取引も減少している。総選挙が終わり、新政権が補正予算をどのようにするかで、回復するのか悪化するのかが決まる。
			その他非製造業 [鋼材卸売] (役員)	受注量や販売量の動き
	悪く なっている	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・低価格品、価格対応品以外の荷動きが悪い。
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
(北海道)	やや良く なっている	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・求人数が前年比108%となっており、前年も求人数が伸びた時期にもかかわらず、さらに上積みする力強さがある。運輸業、食品専門店、一般飲食、ファストフードなどが特に堅調であり、前月に引き続き個人消費関連も順調である。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年比で21.1%増加し、33か月連続で前年を上回った。また、月間有効求人数も前年比で15.8%増加しており、33か月連続で前年を上回った。
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・需要と供給が合っていない。必要な労働力が確保できていない。求人内容と求職者の求める条件、職種、要望が合致していない。情報があふれすぎて求職者の理想が高くなっている。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	それ以外	・決して景況感が良いわけではないのに、全体的に求職者が減少傾向にある。特にサービス業の夕方からの求人と土木建設関連の若者の求人が厳しい状況になっている。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	周辺企業の様子	・求人数などからみると、回復基調にあるのは間違いないが、中国や韓国との領土問題、今後の総選挙や消費税増税などを背景にしてか、上半期よりも力強さを感じられない。
		新聞社[求人広 告](担当者)	求人数の動き	・募集広告売上が上位の6業種である、派遣、小売、医療、飲食、環境衛生、運輸のいずれも前年比を上回っている。特に、医療、環境衛生の伸び率が顕著である。地元企業からコンスタントに出稿が得られているほか、農業、食品関連の派遣求人も依然として堅調であった。
		職業安定所(職員)	それ以外	・10月の管内の有効求人倍率は0.63倍と前年を0.12ポイント上回り、平成5年3月の0.65倍以来の高い倍率となった。
		職業安定所(職員)	雇用形態の様子	・10月の新規求人数は前年比で24.1%の増加となった。新規求職者数は前年比で4.9%の増加となった。月間有効求人倍率は0.73倍となり、前年の0.59倍を0.14ポイント上回った。ただし、新規求人数のうち正社員求人の占める割合は48.1%であり、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
	やや悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き	・年末商戦ということもあり、パートやアルバイトの求人が多くなっている。一方、派遣の採用については、採用基準が高くなっており、なかなか派遣先が受け入れてくれなくなっている。正社員の採用については、更に採用基準が高く、簡単には採用に至らない。知識と柔軟性、コミュニケーション能力に優れていないと就職は難しくなっている。

悪く なっている	-	-	-
-------------	---	---	---